

蕃山先生和歌

K093
F30
(45)



蕃山先生和歌

附先生保佑嚴之圖

熊澤伯繼 著



寛文七歳の年吉野山へもとを付ひ

けくまづはくせゆくすくへなづくへ

四一申のとて宝慶

けくまづはくせゆくすくへなづくへ

四一四一申のとて宝慶

けくまづはくせゆくすくへなづくへ

寒中の物をうきよをきよのとくとく

括易泰山寺

スムのあらゆる事の如きは世の外の月夜の免

大和國多羅の里より行ひては、近國中川久清教長の

木の筋を引く

南齊書

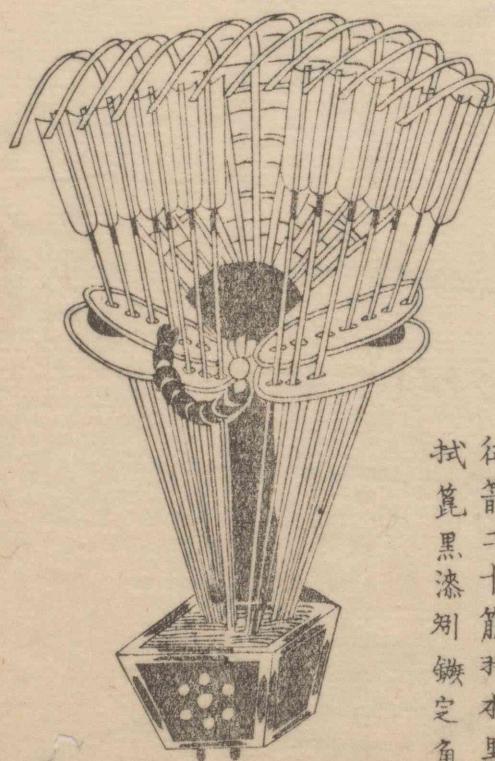
笛竹の如く人をもてらぬ神代の神と云ふ無心の

戊辰の春序

本ノ一ノ高ニシテハシラハシルカトメハヨモカミモジヤクノ
少於風四万叶をも多キハサシシテモレバ道ノ多シノノトメ

蕃山先生保侶箇之箛

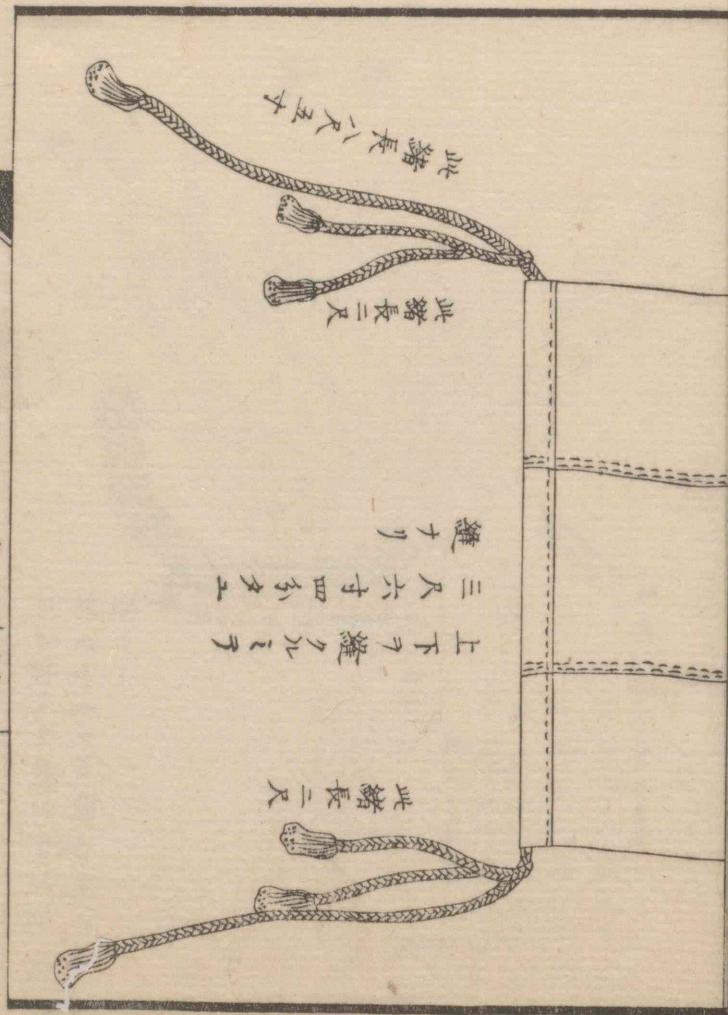
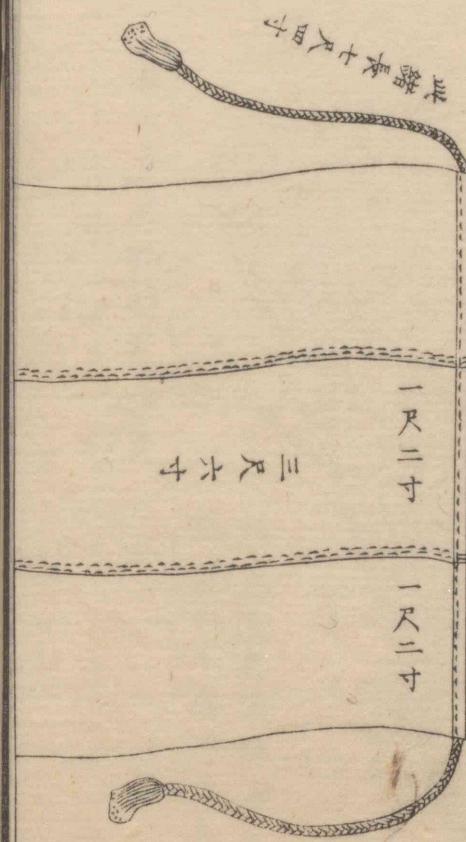
征箭二十筋羽本黒
拭籠黑漆矧鑲定角



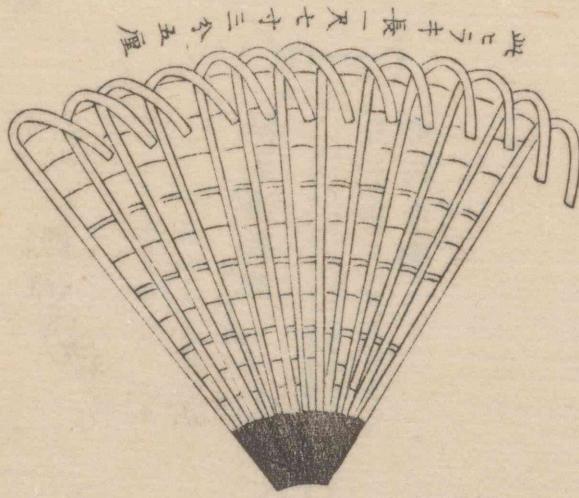
大和國
三輪社
奉納保
侶箇綾
章

保信

淺黃精好
緒紫四組

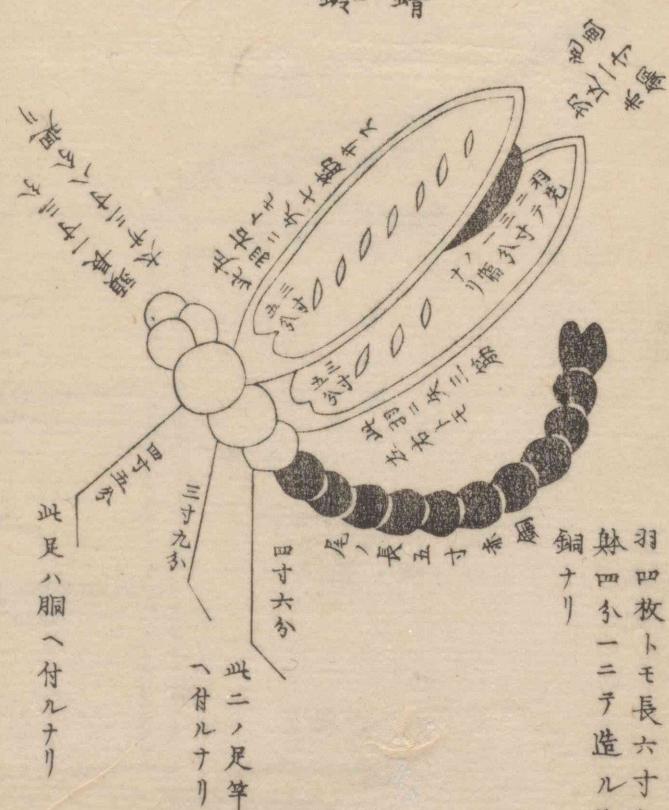


保 侶 串

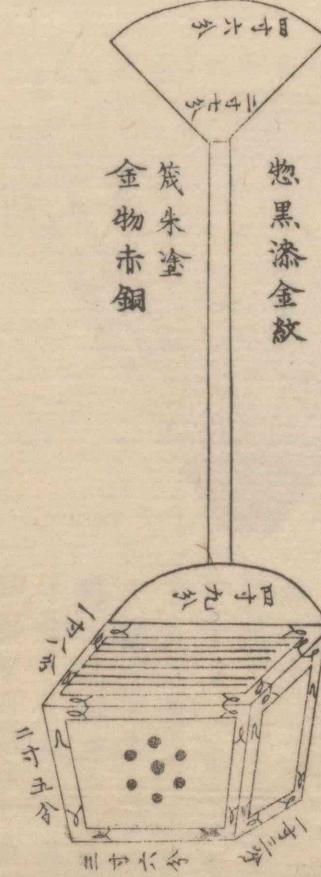


保 侶 串ハ鯨ニテ造
リ金タメ塗ナリ其
數十三本長二尺五
寸横ニ三本サレワ
タシテ其上ニテ前
ヘタリム串ニ此ヲ
アケテ紅ノ糸ニテ
撻ナリ

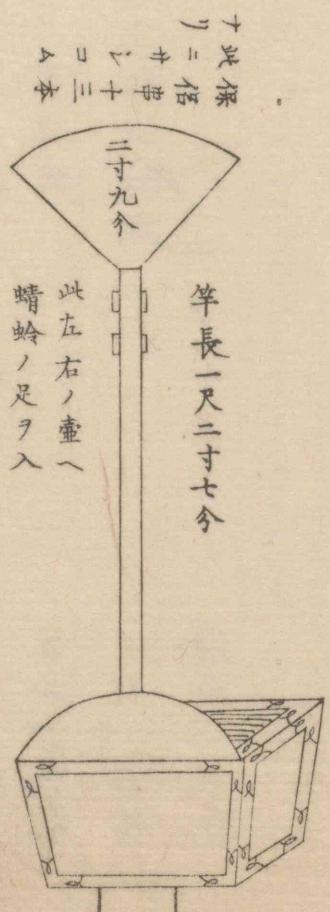
蜻 蜓



簾前



簾後



箱ノ底ニ鉄ノ足二本
アリ長二寸是ハ胴ヘ
付ル料

安永九年庚子九月二十三日

甘雨亭叢書另集

四

謹寫於

草加 親賢

三輪社神殿

石川 勲信

横田 純熙

右保侶般八蕃山先生熊澤了承奉納三輪社翁の歿七星八葉澤氏の歿より一世了承大塔宮の後より非了承草加親賢の子定濃宗循の花了承とゆく宮了承ありのち

天明改元中秋

南畠子

毛羅山

飛驥山

物茂卿 著

飛驥の山中ノ仕事人ノ如ク家其ノ所ノアケナタノイキモ
ア一本木とはノリカムニモ物をより少くやすゝる人有
或ノ楓師山ノミケメノリケテ木の多ニシムと移シム
思フヒリモ其ノ都ト花ツメ一逃ツテ花ツメモナケル
キ人ノシナツツサモハセキトアヤヘ仰ノ用トアホムニ
シ筋モツツシテアツモニモスレシ若シハツツツアヒテ方キモ
後後モナツカリ神ツラカ山中木のツツツモルサツモ

業平天神トシハ五中羽ニテナリ
神モトシハ五中羽ニテナリ

の初ハ平の村門、秀郷ノ子小首を以て其らに相
馬ノイ武藏ヲ迎ケ奉ヘ、ニシテナカニモを祀
奉リトアラバ彼人ノ心ひまゝまゝ六ノイ南村ノミ
モノアタマノアラニシニシテ、かくアラムノアリハ其ラノハシノミ

事の如きにて驛をまわるにあらずと申す。上様
御の如き時ほ人の説く一宿定トハ里を越シハ住人ちく
緒をもつて居そま、又細引時の如きの費用を負はず使
うかと考へて作成し常々人に見せし之へてはむかし

う男大を主飼うちのうへかまうのうへ彼大狐を
妻うへ——了ふとさけりぬくは浦ゆき尾を
くく狐うへ——拘う狐ハテモ中鳥——ミツのを
うめの情うへ——あくタマニ騒ウ女母あくねうへ

物といひておきハ物モノもあやういのちうを種ヒメとあらわすかうも
そよのやうでいとくがくうらとすはるいにまつたれ
まこと今イマを十月イマツキアリテアリテめうげくうの花カタバミをやふむす

芳野山の搗ハニシテモアリ花の葉イテ拳手の匂リシテルハ
山の匂リシテルモアリシテル目ナリヤマモトムク
アヤシムリシテル

はまの落ハ萬葉の大詩は一すゝひは人ノイ其名
をうつる家ノ繪シテレルノイ留念を申伊豆ノミ室
物ノアリ先カムラスコモ借モル此伊豆有カイ
人の氣リシテルノイ寺人奇特の志をナヒ或人の繪
繪の具ナム細アリシ浦の氣シテルハアリナシテル
ナシテルノイ物を教シテ墨スリモキテ佛の経文
経文ナシカシケリケドモ其方ノ香モシケハシケモ
シテ文字ナシ光リトナシテルや又甚松ノリキモト香リシ
ルハ少シ物ナシテ文字の形ナシスルモ石龜の甲ノイハ石ノ
ノミナスアリシテル

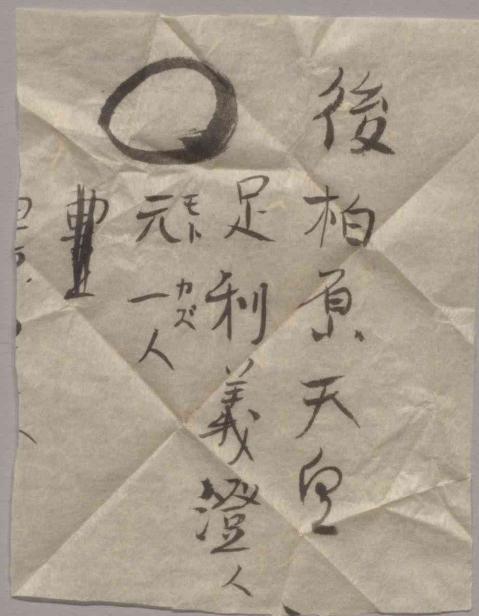
本田道灌の江戸の博を築シテ時ニシテノボロタリ
モ大モカシカシテ候意モシテスモ不くシテナリトモ其地
ナシテルノイはカシテ屋をしほシテニメモニモニモニモニ
寺ニテアリシテルノイ事多のは一すゝひアリシテル

祝言寺（アマニシムニ）又りアリとハ吉祥寺（ヨウショウジ）名（メイ）アマニシムニ
アマニシムニ寺地（シテ）と稱（スル）と吉祥寺の侈（カバタシ）心大（ヒトハシ）人（ヒト）
地（チ）を以（シテ）其寺落（ハシマリ）家（ヤマ）の主（シテ）の寺（シテ）アマニシムニ
祝言寺（アマニシムニ）ハ膝（ハシ）を以（シテ）其寺落（ハシマリ）家（ヤマ）の主（シテ）の寺（シテ）
附（ツノ）其寺（シテ）落（ハシマリ）家（ヤマ）の主（シテ）今（ヒテナシ）世（セイ）アマニシムニ
アマニシムニ寺（シテ）位（スル）アマニシムニ

寔水（シラカミ）の國（クニ）やあんよ伝（ツヅキ）の國（クニ）和田（ワタナベ）はアマニシムニ舟（ボウ）のつこ
アマニシムニ西洋（ヨーロッパ）の國王（クニオウ）の娘宮（メイコウ）の隊（ツバメ）の國（クニ）
舟（ボウ）のアマニシムニ風（フウ）アマニシムニ我國（ワタナベ）アマニシムニ
アマニシムニ舟（ボウ）のアマニシムニ有り（アリ）落（ハシマリ）アマニシムニ落（ハシマリ）アマニシムニ
アマニシムニ舟（ボウ）のアマニシムニ全（ゼン）アマニシムニ長崎（ナガサキ）アマニシムニ有り（アリ）
アマニシムニ國（クニ）の阿波（アハ）アマニシムニ有り（アリ）落（ハシマリ）アマニシムニ落（ハシマリ）アマニシムニ
室（ムロ）を以（シテ）其寺落（ハシマリ）家（ヤマ）の主（シテ）アマニシムニ綾羅錦繡（ヨウラキンス）の酒（サケ）
アマニシムニ愈（ハサシ）田川（タガタケ）の紅葉（レバ）アマニシムニ有り（アリ）落（ハシマリ）アマニシムニ
アマニシムニ落（ハシマリ）アマニシムニ衣（ウエア）をアマニシムニ有り（アリ）今（ヒテナシ）世（セイ）
アマニシムニ傳（ツヅキ）の行（ウイ）事（モノ）アマニシムニ其（ヒト）と圓（カク）アマニシムニ其（ヒト）
アマニシムニ其（ヒト）の行（ウイ）事（モノ）アマニシムニ其（ヒト）と圓（カク）アマニシムニ其（ヒト）
アマニシムニ其（ヒト）の行（ウイ）事（モノ）アマニシムニ其（ヒト）と圓（カク）アマニシムニ其（ヒト）

廿二史劄記

卷之三



甘雨亭詩集

九

右隨筆殘篇。云徂來物部翁所著也。此書無題號。

始題曰飛驥山。

文化丁卯。暮春念四。杏花園主人。借抄于井玖竹。

町家。

甘雨亭集

十一

觀放生山記

飛驥山終

觀放生會記

太宰純 著

年既の朝ハ賜の放生會ノリシテ乃う清小
の西は寺ノ顯譽上人トアヘソモニモカニキニシテ
根のナシノ人所外の基をアタクルハ月十四日の未の時ノリ
ニ高木五條ノ高麗舟ノアリシテ申のサニ候先
トシムニアリテ舟ノ行ノリの事ノモ行体て
えあく舟ノイニ従川をアリ日没入川孤川トシムニ
岸の水ノ御旅所アリシテ多のあさアリ

まことにやうへはけりやくさりとてのめはよかの機会
今もうほくあつて候むれハ雲ひやく風の風氣とて
うきよ候の事の方よりよのまゆのよゆあらわすれを
まづかへばはがの老翁のあらそゑく候物の事より
すまうやうとて山彦のいと高いと身と耳成
ゆるゆるとてすまうにけりの音をやまとくらふ
くらふのゆゑを絶頂もあらしめばやあらくら
内にて上卿のまねあはれ大納言雅通御くらむ
の人にまじめく神ねどくに浮遊と妙絃にむすれ
神供まくらの新あく座上と伶人あくらの櫛の聲と
外へ簾が下りてらあくにくろまくらの種をまく
くく日影あらゆの時とくわんとくわんとくわんと
ゆく風をくわんとくわんとくわんとくわんとくわんと
けく風をくわんとくわんとくわんとくわんとくわんと
やあく風をくわんとくわんとくわんとくわんとくわんと
けく風をくわんとくわんとくわんとくわんとくわんと

春臺太宰先生故生會記一卷。文化丁巳仲夏月
四日寫了。
杏花園

杏花園

松煙ちよ風丸

觀放生會記終

檜垣寺古尾記

貯部元喬著

ゆきのむかわのまつり後撰集大和物語より
山中を下るに今いはく寺へ入るやうあるも
ひきゆきとお山の墨跡人跡をめぐらすあり
アカマツとモクシの木立を多くひたすらかり音
風をもよおすあく朝夕たれむひそむ所す
山中を下るに今いはく寺へ入るやうあるも
ひきゆきとお山の墨跡人跡をめぐらすあり

寶曆八年

古今考略

小山郡秀重の子忠慶の腰脇の星子卿と申す。此を
金船院の上人ともいへる。先ほどの御書の如く、此の
身の如きは、其草稿の寫真を取らざりて、此の身の如き
を先生の義子仲美其志をくわべて、書稿の如く人を擧げて、此
の身の著山和ちあがりゆきの如約の如く、写真を取らざりて、此の
身の著山和甲午の秋月に今人仲美翁も著山和帝も共
に之をかねて、此の書稿の如く人を擧げて、せうかひに、この書
が写真の如く、此の書稿の如く人を擧げて、二篇の和文をうつし
て、此の書稿の如く人を擧げて、此の書稿の如く人を擧げて、

群馬県立図書館



0295133-3